

「3・11を学びびに変える」

橋北中で防災講演会

市立橋北中学校は授業の二環として2日(木)、

参加した。県建設技術センター共催。

企業防災コンサルティング(社)スマートサイバープロジェクトの佐藤敏郎さんを講師に招き防災講演会を体育館で開催した。全校生徒546人が

東日本大震災時、宮城県女川第二中学校の教師だった佐藤さんは、多くの児童が犠牲になり、亡くなった石巻市立大川小学校で自分の次女(当

時6年生)を亡くした。

佐藤さんは「3・11を学びびに変える」と題して講演。「油断と安全は違う。一度来たからしばらくは大丈夫、そんな油断があった」と語り、大川小学校の対応について「時間、情報、手段だけでは命は救えないと分かった」と無念そうに話した。

と強調した。
当時の女川中学校3年生が発案した、1千年後まで震災のことを伝え、地域の人を震災から守る「いのちの石碑」プロジェクトなどを伝えた。生徒たちは真剣な表情で聞き入っていた。



「防災とは郷土愛。地球との関係を形作ること。習慣と信頼を作ること。あの目を語り、未来を語る」と位置付け、「あの日失われた命に意味をつけるためにも、未来に続く防災が必要」